

# 飯伊地区 産業経済動向

No.476 2018/11  
(30. 12. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,163	枚	△	17.8 %	△	9.6 %
	金額	3,725,724	千円	△	13.6 %	△	14.2 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)(10月)	県内	11	件	(前月 8 件)		(前年同月 7 件)	
	飯伊	6	件	(前月 2 件)		(前年同月 1 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(10月)		47	戸		14.6 %	△	25.4 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(10月)		1.58	倍	(前月 1.70 倍)		(前年同月 1.69 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,293	台		3.7 %		10.1 %
	中古車	572	台	△	8.2 %		8.5 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (10月)	新車	4,368	台	△	9.3 %		9.6 %
	中古車	967	台		20.4 %		4.3 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	123,184	台	△	0.6 %		0.7 %
	出	122,805	台	△	2.0 %		0.3 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	92,610	台		3.8 %		0.6 %
	出	91,757	台		7.3 %		0.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	19,107	台	△	16.4 %		15.9 %
	出	19,132	台	△	17.0 %		11.7 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	47,555	台	△	0.6 %	△	0.4 %
	出	48,094	台	△	1.6 %		0.6 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		138	件		3.0 %	△	2.8 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		4	件	(前月 0 件)		(前年同月 7 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	26,399	人	△	3.5 %		2.4 %
	飯田～名古屋	17,852	人	△	3.7 %	△	2.0 %
	飯田～長野	9,602	人	△	3.0 %		1.6 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	21,038	人		— %		— %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,565	人	△	2.3 %		8.3 %
	右回り	3,576	人	△	3.0 %		8.1 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにしています。



再生紙を  
使用しています

# 概況

## 製造業

11月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス30.0で、前月から14.0ポイント低下。翌月予測もマイナス41.4で、前月から22.9ポイント低下している。

電気、精密機械器具の販売の前月比は、業者により増減分かれる。半導体、液晶製造装置向け部品の生産は、前月比やや減少～横ばい、前年比は減少。産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、横ばい、ないしやや増加との声もあるが、こうした声はごく少なく、減少～やや減少との声が多い。前年比は、やや増加との声も複数。建築用金属製品の売上は、前月比増加、「例年同様この時期は多忙」など景況感も好転との声が聞かれた。自動車向け部品の販売は、前月比減少～横ばい。前年比は業者により増減分かれる。一部に景況感が悪化との声も。光学機器関連部品の販売は、前月比横ばいとの声。小型電磁機器の販売は、前月比横ばい～増加。一部に景況感が好転した業者も。FA関連モーターの販売は、前月比やや増加も、これは時期的なもので、景況感は悪化との声が寄せられた。電気、電子製品の生産は、前月比概ね横ばい、景況感も動きはないとの声が寄せられた。

## 地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、横ばい～増加。景況感は分かれ、「年末の動きが速い」など景況感が好転した業者も見られた一方、「新規導入品以外は、定番、特売ともに低調の様子」といった声が寄せられた。「年末向け商品出荷の最盛期」にある水引製品の販売は、前月比やや増加～増加。複数の業者から前年比も増加との声が寄せられた。漬物の販売は、前月比増加、前年比やや減少との声。

## 建設業

11月の建設業の景況DIは0.0で、前月から7.1ポイント低下。翌月予測DIは0.0で、前月から6.3ポイント上昇した。

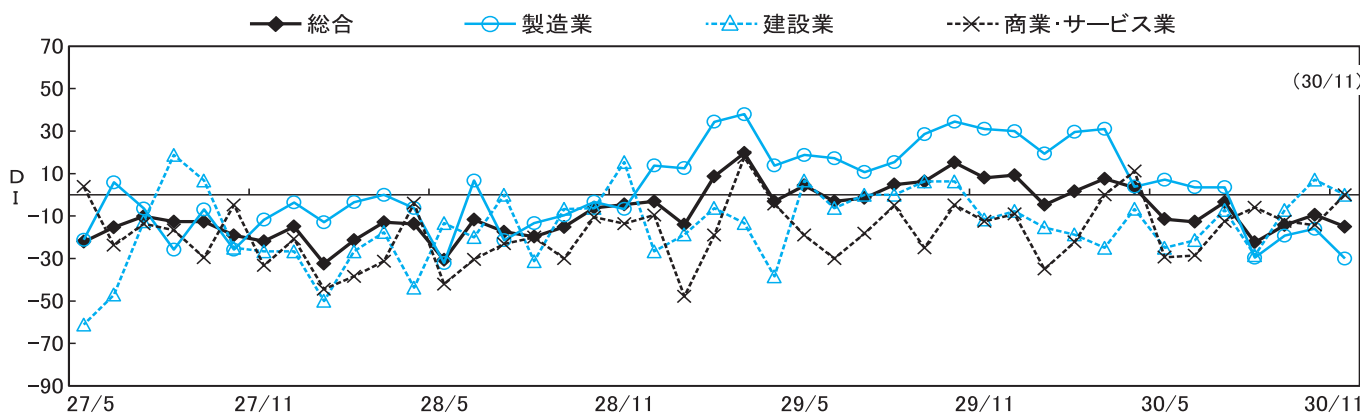
当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、12月15日調査時点で約15.0億円となっている。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減分かれる。「公共工事全体では前年の工事量を下回っている感」などの声の一方、「年度末に向けて発注増加」などの声も聞かれ、景況感は、良好とする業者、悪化とする業者ともに多くはなく、横ばいとする業者が多い。

当地区の住宅着工戸数は47戸。前月比15%増加、前年比は25%減少している。当月の調査先企業の受注残高は、前月比横ばい。住宅に関し、「消費増税前の駆け込みか、建築現場が目立つし、確認申請も多い」など増加しており、消費増税前の駆け込みと結びつける見解が複数聞かれた。

## 商業・サービス業

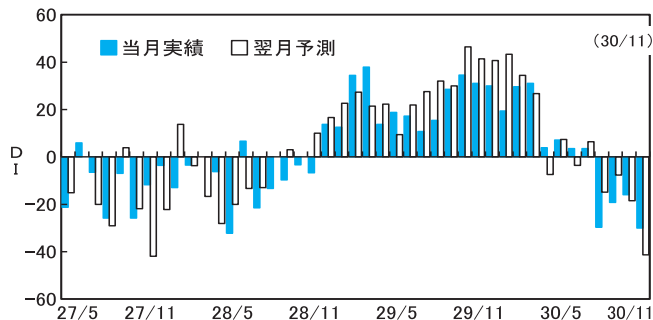
11月の商業・サービス業の景況DIは、0.0と、前月より14.3ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス23.5で、前月より2.1ポイント下降している。食料品の売上の前月比は、減少～やや減少も、景況感の悪化には至っていない。青果卸売市場の販売は前月比減少も、これは「前月松茸の入荷が多く、販売単価が高かったため」で、景況感悪化していない。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加との声。電化製品の売上は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。家事用品の売上は、前月比増加、景況感も良好との声。娯楽用品の売上は、前月比若干増加も、前年比はやや減少との声が寄せられた。衣料品の売上は、前月比やや減少～横ばい。「思ったより気温が下がらず、冬物衣料は苦戦している」などの声。土産物の売上は、前月比概ね横ばいという。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比4%増加、前年比も10%増加。10月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比9%減少も、前年比は10%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比とも増加との声が聞かれた。市内料理店の売上は、前月比、前年比とも、やや増加～増加。昼神温泉の売上は、前月比、前年比とも減少との声。雇用面で「不足が続いて困っている。人手が足りないばかりに満館にできないことも」など、人手不足は深刻な様子。タクシーの売上は、前月比やや減少、前年比概ね横ばいとの声が寄せられた。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



## 地区内製造業の景況判断指数

### 飯伊地区景況DI（製造業）



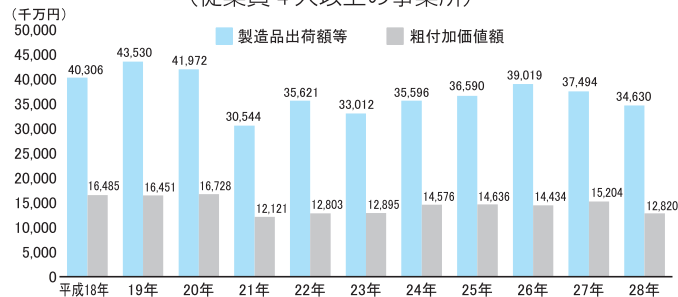
当月実績DI	-30.0	(前月 -16.0)
翌月予測DI	-41.4	(前月 -18.5)

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス30.0で、前月から14.0ポイント低下。翌月予測もマイナス41.4で、前月から22.9ポイント低下している。

### 工業統計調査結果

長野県が公表した工業統計調査によると、平成28年の飯伊地区の製造品等出荷額等は約34,630千万円で前年比マイナス7.6%、粗付加価値額は約12,820千万円で前年比マイナス15.7%となっていた（図1）。

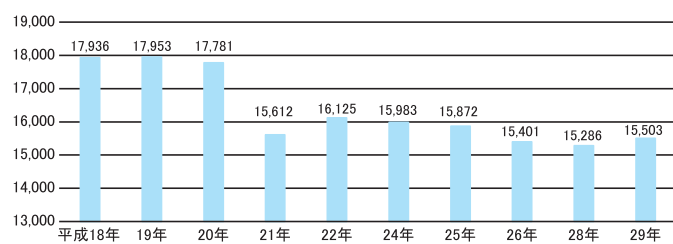
### 図1 飯伊地区 製造品出荷額等、粗付加価値額の推移（従業員4人以上の事業所）



平成23年と平成27年は経済センサス活動調査の数値。その他の数値は工業統計調査の数値  
平成27年については個人経営調査票による調査分を含まない  
伏字のある市町村は含まない（資料：長野県工業統計調査）

同調査によって飯伊地区の製造業の従業者数を見ると、平成28年は15,286人で、前年に比べ0.7%減少している。平成29年は15,503人で、平成28年より1.4%増加していた（図2）。グラフにないが、同調査によって平成29年の当地区の現金給与総額を見ると、5,832千万で前年に比べ2.4%増加している。

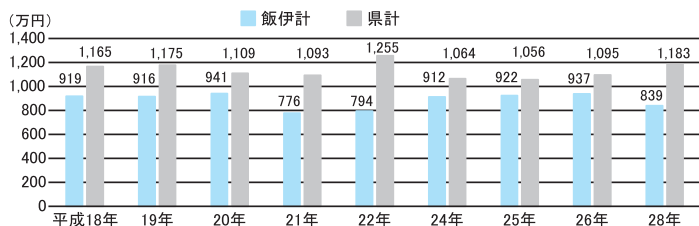
### 図2 飯伊地区 従業者数の推移（従業員4人以上の事業所）



平成23、27年は、翌年経済センサス活動調査が実施された関係で、ここでは把握できないものとした  
平成28年は経済センサスによる。それ以外は工業統計調査による  
製造品出荷額等において伏字のある市町村は含まない（資料：長野県工業統計調査）

これらを基に平成28年の従業員一人当たりの粗付加価値額を試算すると839万円となり、平成26年に比べ10.5%減少している（図3）。

### 図3 従業員一人当たり粗付加価値額の推移（従業員4人以上の事業所）

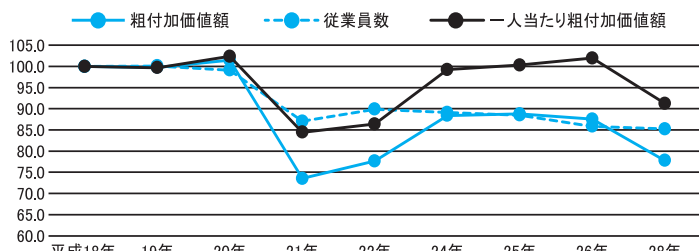


粗付加価値額、従業員数に関する注は、図1、2参照（資料：長野県工業統計調査）

図4は、粗付加価値額、従業者数、一人当たり粗付加価値額について、平成18年を100として各年の指数を試算したものだが、粗付加価値額や従業者数については、リーマンショック以後平成18年の水準には戻っていないことが見て取れる。

一方、一人当たり粗付加価値額は、リーマンショック後2年ほど経過して概ね平成18年と同様の水準に回復したが、平成28年に再び低下していた。

### 図4 粗付加価値額、従業者数、一人当たり粗付加価値額指数の推移（H18=100 従業員4人以上の事業所）



粗付加価値額、従業員数に関する注は、図1、2参照（資料：長野県工業統計調査）

## 機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売の前月比は、業者により増減分かれる。「当社の販売高は過去最高」などの声がある一方、受注、販売ともに前年より減少しており、景況感が悪化した業者も見られた。一部に外国人労働者を受け入れるとの声。

半導体、液晶製造装置向け部品の生産は、前月比やや減少～横ばい、前年比は減少。「落ち幅は、思ったほど大きくないが、低空飛行が長期化しそう」「今までが作りすぎ」「米中貿易摩擦の影響か、投資のペースが鈍化している。これにより受注が減少している」「スマホ系は調整」「サーバー向け一部鈍化」「FPD関連減少」「車載等の大型基板向けは旺盛」などの声。原材料、資材価格は概ね横ばいも、「ニッケル系ステンレスでは値下がり」との声が聞かれ、ある程度価格は落ち着いていくのではないかとの声も。雇用面で「1名増員」「やや不足」などの声。設備面で積極的な声も聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、横ばい、ないしやや増加との声もあるが、こうした声はごく少なく、減少～やや減少との声が多い。前年比は、やや増加との声も複数。「医療関連は比較的安定」「単品や短納期ものは案件がある」「食品製造機器は安定している」「宇宙、防災関連は、需要が国内ということもあり大きな動きはない」などの声や、「厳しい状況。ロボットなどでは3割強の落ち込みを予想」「産業用機械向けは落ち込みが顕著。しばらく低迷」「金型でも全体的に減少との声も聞く。材料屋さんも仕事量が減ったという」「全体的にやや減少との声が多い」「全体的に一服感」「同業も落ち込んでいるよう」「年末を控え取引が慎重になっている感」「輸出関連は大きく落ち込む」「海外向けの量産品は来年3月から

いまで見込めないとの声もある」などの声が寄せられ、景況感も悪化した業者が多い。このように先行も弱含みとの声が多いが、「9月から右肩下がりがだったが、ここに来て少し回復。とはいえ不透明感が残る」「直近2か月漸減していた日々の受注が下げ止まり、ここ一週間ほどは反転して連日大幅増加。しばらく様子見」といった声も。「米中の貿易摩擦の影響がジワジワと押し寄せてきた。時代の読みが難しい」「世界情勢に大きく影響され、不安要素は多い。情報収集が不可欠。ピンチをチャンスに変える術を見つけない」と、世界情勢の影響を測りかねる声が聞かれた。

原材料、資材価格に関し、「段ボール、梱包材」などで値上がりがあったというが、大きな動きはなかった様子。雇用面では、目下は現状維持との声が多いが、「増員予定」「検査関連で募集」「複数名求人を出した」などの声や、「過剰。調整が必要になるかもしれない」との声も。設備面で積極的な声が複数。

**建築用金属製品**の売上は、前月比増加、「例年同様の時期は多忙」など景況感も好転との声が聞かれた。こうした状況が当面続く見込みという。

**自動車向け部品**の販売は、前月比減少～横ばい。前年比は業者により増減分かれる。一部に景況感が悪化との声も。「自動車の電気化は進む。ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車で使用される部品が増えていく」との声が寄せられた。一部に雇用面で不足感があるとの声。

**光学機器関連部品**の販売は、前月比横ばい。前年比は増加も、受注が前月に比べやや減少していることもあり、景況感はやや悪化との声。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

**小型電磁機器**の販売は、前月比横ばい～増加。一部に景況感が好転した業者も。先行きの見方は分かれる。原材料、資材価格がやや上昇との声。雇用面では現状維持の様子。一部に設備面で積極的な声。

**FA関連モーター**の販売は、前月比やや増加も、これは定期的なもので、これを除くと「前月との差が大きくなっている」ほか、受注面で「産業機械向けが減少で推移」といった事情もあり、景況感も悪化との声が寄せられた。「中国における米中貿易摩擦の影響が国内販売で出始めており、今後の状況は悪化することが懸念される」など、先行きも弱含みという。

**電気、電子製品**の生産は、前月比概ね横ばい、景況感も動きはないとの声が寄せられた。人員の不足が続いているとの声。

## 地場産業

**半生菓子、菓子原料等**の売上の前月比は、横ばい～増加。一部に前年比やや増加との声も。景況感も分かれ、「年末の動きが速い」など景況感が好転した業者も見られた一方、「新規導入品以外は、定番、特売ともに低調の様子」などの声や、「輸出品は良いとの話もある」といった声が寄せられた。「運賃、包材、段ボールが上昇」など、原材料、資材価格がやや上昇との声が複数。雇用面で、一部に「不足するかもしれない」との声がある。設備面で積極的な声が複数。

「年末向け商品出荷の最盛期」にある**水引製品**の販売は、前月比やや増加～増加。複数の業者から前年比も増加との声。「12月中旬から出荷する商品の受注が増加」「単価アップや新規顧客の増加で販売が増加」「一部スポット注文もあり売上が伸びた」「新製品の販売が伸びた」などの声が寄せられた。こうした中、「小売店の廃業があった。今後も販売店の減少が続くそう。売上に影響が及ぶそう。現状の製品であっても利用者を一人でも増やせるよう、宣伝などに務める必要がある」「指定納期日に届けられないなど、輸送能力不足への対応も限界に近い」「正月飾りでは、納期は早まった一方、支払いサイトは長くなり負担が大きくなった。今後のことを考えると、正月飾り以外の商品を見つけ出す必要がある」「受注は増えてい

るが、製造者が足りず人材不足は深刻。外国人労働者に頼る時期が来ているかもしれない」などの声が寄せられた。『水引の里』構想が出された。趣旨には大いに賛同。素材の生産が少なく、加工現場も海外が多いという当地の現況とどう結び付けていくか、工夫の余地はあるかもしれない」との声が寄せられた。

**漬物**の販売は、前月比増加、前年比やや減少との声。「天候が安定したことは、原料の調達にとっては良いことだが、それに伴う野菜の安値や気温の高さが、加工食品の分野で消費に影響を及ぼしている」という。

## その他製造業

**食品関連包材**の生産は、前月比やや増加との声が寄せられた。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかったという。

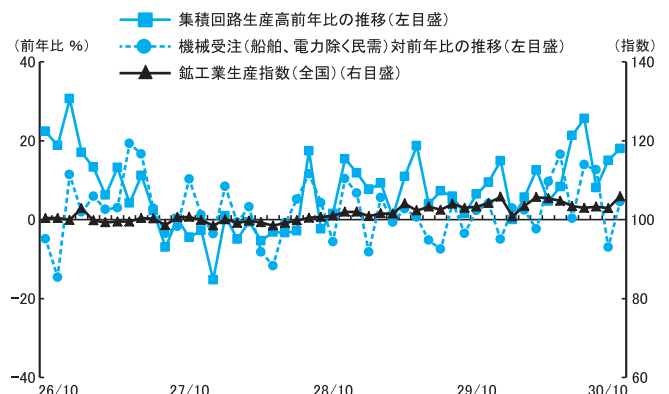
**印刷、出版関連**の売上は、前月比、前年比とも減少との声が聞かれた。「11、12月は年賀状印刷が期待できる月だが、年々減少している。『終活年賀』（年賀状を出すことを取りやめる、ないしは年賀状を出す人を厳選すること）なるものも話題になり、今後ますます減るのでは。そうした中、コンビニや郵便局も年賀状印刷に力を入れており、印刷業への影響は大きい」などの声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかったものの、「大手製紙会社が、原材料価格や物流費の上昇を理由として、1月出荷分から印刷用紙などを2割ほど引き上げると発表。直ちに転嫁することは期待できず、不安は募る」という。

**衣料品**の販売は、前月比、前年比とも減少との声。「冬の到来が遅く、例年になく暖かいため冬物コートが全く売れず、各アパレルとも春物が作れない状況。生産ラインが空いていることがあり、今までにない状況が続いている」という。先行き生産増加を見込む声が聞かれたが、「海外工場では2月に旧正月の長期休暇に入るため、1、2月の生産は混乱するのではないか。国内の売場も空いてしまうかもしれない」との声も。「今のデフレ経済の中では縫製工場も少なくなっていくと思われる。販売でも、完全買い取りや、バーゲンの早期実施をしないことなど、対策が必要なのではないか」との声が寄せられた。

### 【企業からのコメント】

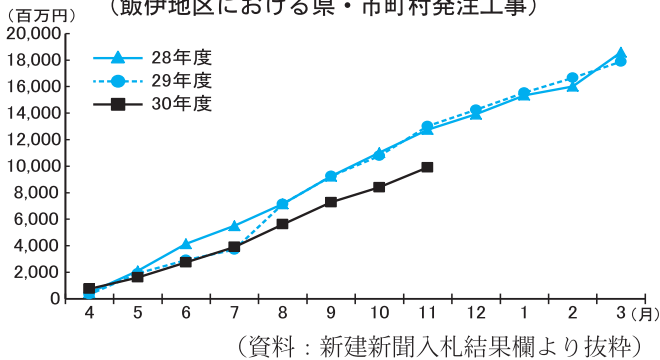
- ★海外技能実習生の問題がクローズアップされているが、実際に認可を取り消されている工場も多くなってきている。こうなってしまう要因は加工単価が低すぎることだろう。このままでは製造現場がどんどん少なくなってしまうのではないか。
- ★新規事業への引合いが徐々に増加している。
- ★展示会に出展。
- ★親企業の海外移転、後継者問題、人手不足、仕事の不足、資金繰り、どれ一つとっても中小企業の経営はますます厳しくなっている。

## 集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



## 入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新建新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI 0.0 (前月 7.1)

翌月予測DI 0.0 (前月 -6.3)

## 官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、12月15日調査時点で約15.0億円となっている。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減分かれる。「公共事業の発注は低調」「公共工事全体では前年の工事量を下回っている感」などの声の一方、「年度末に向けて発注増加」「十分な工事量」「年間の追加受注の動きは鈍いが、前年に比べると増加」などの声も聞かれた。景況感も、良好とする業者、悪化とする業者ともに多くはなく、横ばいとする業者が多い。先行きは、受注残高の増加を見込む業者も少なくない。

「土木、建築工事の職人不足が顕著」「工事量は多くないが、民間工事があることもあってか全体的には忙しく、人手不足。施工管理の技術者、ガードマン、11tダンプなどが不足」「こうなってみると、労務を持っている業者が強い」など、職人や技術者などの不足感を指摘する声が多く聞かれたほか、「人員は、現状は維持だが、5～10年後が心配」「依然、長期的に不足する状況」などの声も聞かれ、「技術者、営業を募集。特に営業職員が必要」「施工職員を募集中」「求人是一直続いている」といった声は多い。

「資材に関し「コンクリート製品の値上げがあった」が、これにより「設計単価との間に差が発生している」との声が聞かれたほか、「鉄骨やボルトの調達に遅れが生じている」という。

このように「資材の高騰や作業員不足の問題がある」ことから、「公共事業は、災害復旧工事の発注が見込まれているが、工期との関係で不調が発生する恐れがありそう」との声も。

設備面では、「ICT設備やエコ機材など、古いものから更新したい」「営業用車両を次月入替予定」「新システム導入」など積極的な声がある一方で、「少し控える」「一時的に仕事が増えても、投資は消極的にいきたい。小規模工事でも一つ一つ積み上げる方針」といった声も聞かれた。

## 民需

当地区の10月の住宅着工戸数は47戸。前月比15%増加、前年比は25%減少している。

当月の調査先企業の受注残高は、前月比横ばい。景況感が好転した業者は見られなかったものの、「製造業の案件も落ち着いてきた様子。大型物件は官民ともに各社に行き渡るほどではないが、中型物件を受注できた」「製造業の新設、宿泊業の新設、増築などがあり、工事単価も良好」などの声も聞かれた。

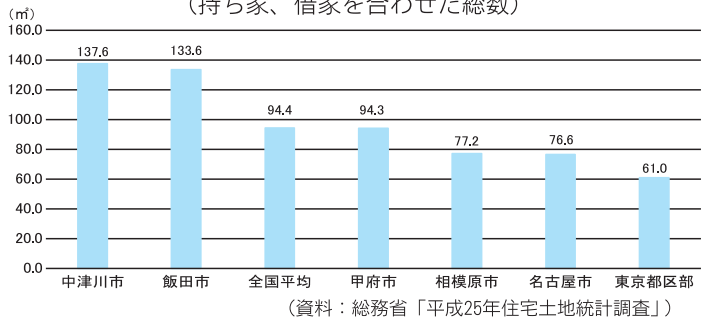
住宅に関し、「消費増税前の駆け込みか、建築現場が目立つし、確認申請も多い」「消費増税を見据えた建設工事が増加している」「民間住宅の引合は比較的

ある様子」など増加しており、消費増税前の駆け込みと結びつける見解が複数聞かれた。資材に関し、「鉄骨は高い」などの声。

## リニア駅設置都市の、1住宅当たり延べ床面積

総務省の平成25年住宅土地統計調査によって、リニア中央新幹線設置駅が属する都市の、1住宅当たり延べ床面積を見ると、中津川市や飯田市では、名古屋市市の1.7倍前後、東京都区部の2.2倍前後となっている。飯田市の場合、昭和45年以前に建てられた住宅の1住宅当たり床面積が138.3㎡でそれ以降に建てられた住宅よりも広く、こうした住宅の利用次第では、都心部の住人に豊かな住環境を提供できることも考えられるかもしれない。

## リニア駅設置都市の、1住宅当たり延べ床面積 (持ち家、借家を合わせた総数)



(資料：総務省「平成25年住宅土地統計調査」)

## 建設資材

塗料等建設資材の売上は、「冬場前の駆け込み的な要因」もあって、前月比増加との声。前年比も増加しており、景況感も好転しているという。「次月から2月くらいまでは閑散期」で、先行きは販売の減少が見込まれている。

鋼材の売上は、前月比概ね横ばい、前年比はやや増加も、「状況としては前月と大きな変化はない。景況感が良いわけでもなく、先行きも不透明」との声。鋼材価格に関し「品種によっては多少上昇。強含み横ばいといったところ。一部鋼種や高力ボルトの品薄があり、確保に注意が必要」という。

生コンの売上の前月比、前年比は、一部に増加との声も聞かれるが、減少～やや減少との声が多い。「主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信自動車道工事、砂防・護岸工事、工場・公民館・保育園・老人ホーム建設工事などに関わるもの」という。販売が減少したとする業者からは「河川の災害工事の発注を期待する」との声が聞かれた。「リニア関連工事の出荷量は前月より増加」という。

骨材の売上は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「総じてあまり動きはないが、リニア関連工事の影響で地域によって動きが良いところもある」などの声。

### 【企業からのコメント】

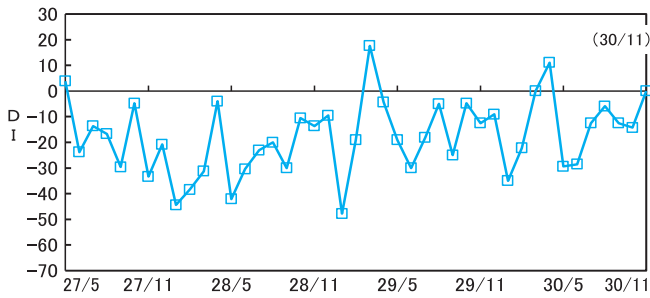
- ★地元の業者は、相変わらず低迷している。
- ★作業人員の自然減で、数十年前より売上は減っているが、作業員一人あたりの受注量は増えている。
- ★リニア関連工事が段々と出てくることを願う。

### 住宅建築確認申請受付状況 (※本誌調査による概数)

11月	
○飯田建設事務所分	
新築	16件 (前年 15件)
増築	1件 (前年 0件)
○飯田市役所分	
新築	21件 (前年 23件)
増築	1件 (前年 0件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	0.0 (先月 -14.3)
翌月予測DI	-23.5 (先月 -21.4)

## 商業

食品の売上の前月比は、減少～やや減少も、景況感の悪化には至っていない。仕入価格は依然上昇との声もあるが、落ち着いてきた様子も窺える。歳末もあり、先行きは販売の増加を見込んでいるとの声が寄せられた。

### 〔青果卸売市場〕

販売は前月比減少も、これは「前月松茸の入荷が多く、販売単価が高かったため」で、景況感悪化していない。

野菜は、「天候に恵まれ気温も高かったことや、昨年、一昨年と不作だったこともあり、前年比で入荷量は前年比7%増加、価格は13%安。しばらくは安値が続くそう」との声。

果実は、「主力のりんご、みかんは、ほぼ前年並みの売上。イチゴと干し柿は、天候に恵まれて早めの出荷。全体では入荷量は4%減少で、価格は、干し柿の出荷が多く13%高」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感に動きは感じられないとの声。先行きも販売の増加を見込んでいるという。設備面で不足感があるとの声。

電化製品の売上は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。「冬物本番の時期を迎えたが、気温が下がりず序盤は苦戦」「大型物件に伴う資材、寒冷地仕様の大型エアコンの伸びは好調。全体的に南信より北の方が、元気があるように見受けられる」などの声。

家事用品の売上は、前月比増加、前年比は減少しているが、これは「昨年ゴミ袋の発売で売上が多かったため」で、景況感良好との声。先行きも販売の増加が見込まれている。「秋も気温が高くて冬物が売れない。カイロなども店頭で売れない」という。前月に引き続き、「紙類、プラ製品が値上がり」「ガソリンの値上がりもあって配送コストがかなり高つく」などの声が聞かれた。

娯楽用品の売上は、前月比若干増加も、前年比はやや減少、景況感に大きな動きは感じられないとの声が聞かれた。時節柄、先行きは販売の増加が見込まれている。

衣料品の売上は、前月比やや減少～横ばい、前年比は業者により増減分かれる。「気温が高い影響か客足が鈍く、売上に影響がある」「思ったより気温が下がらず、冬物衣料は苦戦している」などの声。仕入に関し、「原油高や生産国の人件費の影響で年明けから値上がり予定」との声が寄せられた。

土産物の売上は、前月比概ね横ばいの声。先行きにも大きな動きは見込まれていないという。仕入価格が上昇基調にあるとの報が寄せられた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比4%増加、前年比も10%増加。中古車は、前月比8%減少も、前年比は9%増加。10月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比9%減少も、前年比は10%増加。中古車は、前月比20%増加、前年比も4%増加。

自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比とも増加との声。「夏場に発注してあった新車が間に合ってきたため売上は大幅に伸びた。中古車も、前年、前月比ともに台数を伸ばせた」など景況感も良好という。「新規の受注は低調。買取も来客が少なく、12月が厳しそう」など先行きは弱含んでいるという。「整備士が辞めたという話をちょくちょく耳にする。今まで以上に人材確保に留意したい」との声が聞かれた。

## サービス業

市内料理店の売上は、前月比、前年比とも、やや増加～増加。「秋を迎え、お陰様で沢山の方にご利用いただいた。今月の好調で、通期で10月までの数字が改善」「出前や小さな宴会も多かったが、大手同業の影響か、家族連れは少なかった。出前メニューの充実や目玉商品、他の人のやらないことを考えたい」「秋口、忘年会シーズンと、同業も忙しい様子」などの声。景況感分かれ、良好との声が聞かれた一方、「11月も苦しかった」「予約の問い合わせの際、ご利用希望金額が下がっている感。景気は少しずつ傾いてきているのでは」「消費税が話題になってきたが、景気が悪くなる気がする」などの声も。仕入に関し、「イカはいいし、タコは高いまま年末を迎える」「マグロなどが高値で止まり仕入単価が上昇。今年は野菜が高くなって助かる」「年末に向けた仕入をするが、この後どうなるか」「送料が本当に高い」など、特に水産物に関し仕入、経費の高騰が続いている。一方、販売価格は「上げることはできない。他の『美味しい』を創ることを考える」との声が聞かれた。

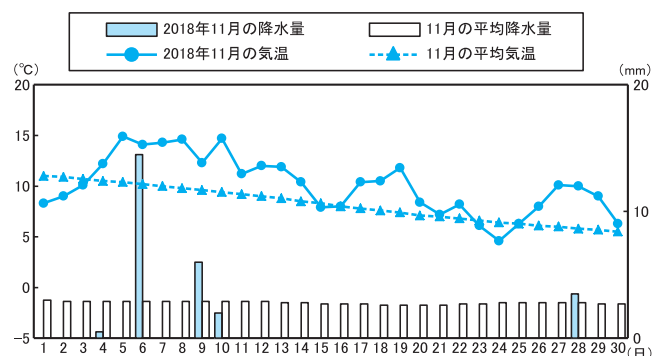
屋神温泉の売上は、前月比、前年比とも減少との声。「以前は10、11月がトップシーズンだったが、近年は星空ツアーに集約されてきた感。秋のシーズンに独特の、観光バスによるツアーや団体客は少なくなったと感じる」「雲海ツアーは、早朝企画とあって当初は心配したが、ご来光、紅葉、星空、雲海を一遍に楽しめるとあって、当社だけでも多くの方をお連れできた」などの声。雇用面で「不足が続いて困っている。人手が足りないばかりに満館にできないことも」「募集を続けている」など、人手不足は深刻な様子。

タクシーの売上は、前月比やや減少、前年比概ね横ばいとの声。「年末の繁忙期にかかってきているが、夜の仕事量に目立った変化はない。今後の気象や繁忙期の人の流れで、大きく左右されるだろう」「介護輸送といった特殊な業務に力を入れる必要がある」などの声が寄せられた。雇用面で、「労働力不足が深刻。新規社員の獲得が困難なのに、高齢化は進む」との声。依然「LPGが上昇基調」という。

### 【企業からのコメント】

- ★「1名増員」「雇用面で過剰感」「人が少し足りない。募集をかける」
- ★同業から見ても、ある大手はたいしたものだ。
- ★同業者に仕入先の廃業があった。
- ★会社の垣根を超えて、お客様目線で対応することの重要性を感じる。協力できるところは積極的に助け合うこともあってよいのではないかな。

飯田の気温と降水量



# 2018年の飯伊地区各種統計から

## 長野県鉱工業生産指数

平成30年9月までの長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100 以下同じ)の推移をみると、7月に平成22年の水準を下回ったものの、昨年8月以降、平成22年の水準を上回っていた。

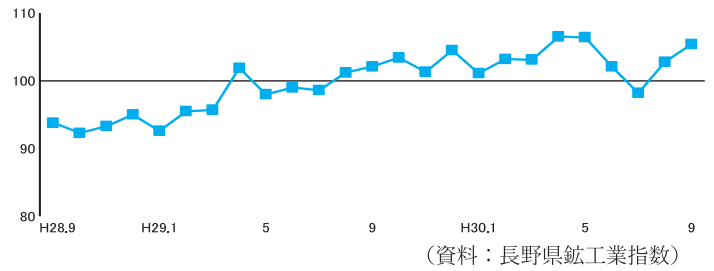
業種別に見ると、情報通信機械工業(ウェイト1171.7)、金属製品工業(ウェイト647.4)や電気機械工業(ウェイト690.6)などでは、年初来、概ね前年を上回って推移している。

また、はん用・生産用・業務用機械工業(ウェイト1731.8)や電子部品・デバイス工業(ウェイト1622.4)、輸送機械工業(ウェイト867.1)、食料品工業(ウェイト1268.4)などでは、本年の生産指数は概ね順調に推移したが、昨年後半から生産指数が上昇していることもあり、前年比で見るとマイナスとなった月も見られた。

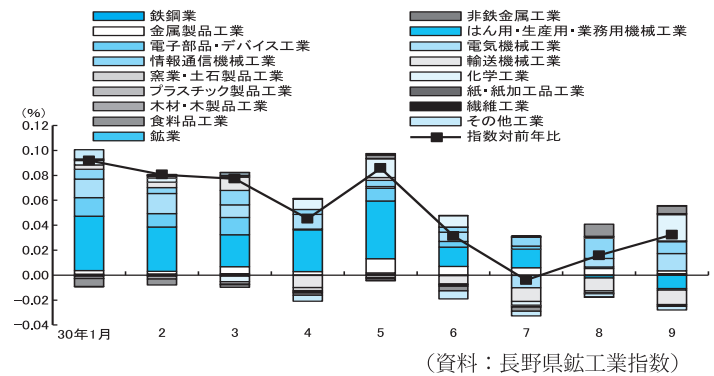
資料：長野県企画局情報政策課

※平成30年の9月は速報値、8月以前は確報値を使用。  
ただし、今後年間補正等により改定されることがある。

## 長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100)の推移



## 長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100)上昇率 品目別寄与度



## 飯伊地区の県、市町村工事入札額

平成30年10月現在の、当地区における県、市町村を合わせた公共工事入札額の累計をみると、例年に比べ減少している。

10月現在、今年度の県発注工事入札額累計は概ね前年度並みだったものの、市、町村の発注工事入札額が昨年度に比べ減少している。

## 発注者別入札額の累計

(単位：百万円)

年度 月	県			飯田市			町村計			県、飯田市、町村計		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
4月	241	82	491	42	58	224	170	195	42	453	335	757
5月	314	191	764	450	213	372	1,335	1,503	475	2,099	1,907	1,611
6月	857	398	1,161	1,018	582	521	2,274	1,941	1,067	4,149	2,922	2,749
7月	1,516	732	1,566	1,357	780	946	2,624	2,198	1,374	5,497	3,711	3,886
8月	2,269	2,372	2,252	1,488	2,232	1,190	3,391	2,542	2,153	7,149	7,146	5,596
9月	3,727	3,263	3,326	1,831	2,442	1,338	3,679	3,539	2,589	9,237	9,244	7,254
10月	4,095	3,566	3,638	2,788	3,024	1,657	4,125	4,182	3,085	11,008	10,772	8,379
11月	4,320	4,431	-	4,146	4,123	-	4,288	4,461	-	12,753	13,016	-
12月	4,694	4,695	-	4,552	4,531	-	4,672	4,911	-	13,919	14,136	-
1月	5,680	5,109	-	4,788	5,278	-	4,878	5,041	-	15,346	15,428	-
2月	6,035	6,062	-	4,862	5,335	-	5,114	5,143	-	16,010	16,539	-
3月	6,674	7,044	-	5,967	5,383	-	5,952	5,337	-	18,594	17,765	-

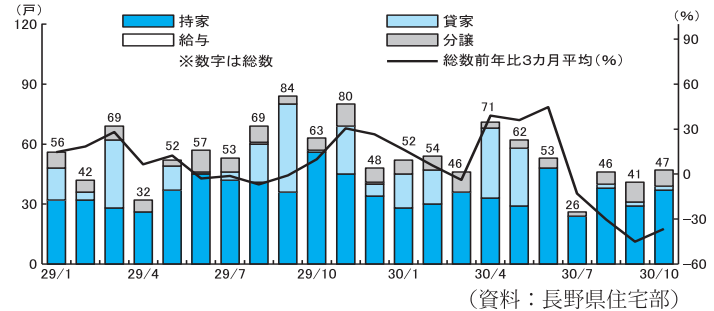
(資料：新建新聞「入札情報」抜粋)

## 飯伊地区の住宅着工戸数

住宅着工戸数(用途別)の推移を見ると、平成30年10月現在の暦年累計は、持家332戸、貸家104戸、給与0戸、分譲62戸で、合計498戸。昨年は、10月時点で持家375戸、貸家134戸、給与2戸、分譲66戸、合計577戸だった。

10月現在の暦年累計は、25年441戸、26年351戸、27年458戸、28年534戸、29年577戸で、昨年、一昨年が多く、本年が必ずしも少ないわけではないが、ここ数か月、貸家の着工戸数が少ない。

## 飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移(用途別)

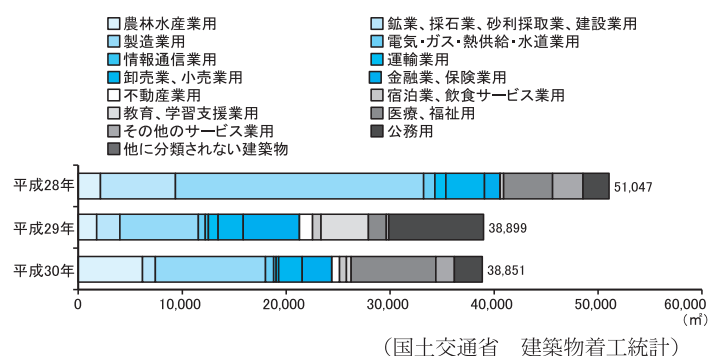


## 飯伊地区の非居住用建物床面積の合計

平成30年1~10月に着工された非居住用建物の床面積の合計(公務含む)は、38,851㎡で、昨年の同期間に比べ0.4%減少した。

これを産業大分類別に見ると、多くの業種で着工床面積が減少している中、農林水産業用で251.0%、医療、福祉用で373.2%、その他のサービス業用で697.3%増加していたほか、製造業用でも、平成28年には及ばないものの、昨年よりは40.7%増加していた(いずれも前年同期間比増加率)。また、鉱業、採石業、砂利採取業、建設業用建築物では、平成28年の着工床面積が最も大きく、7,193㎡だった。

## 飯伊地区の非居住用建築物 床面積の合計

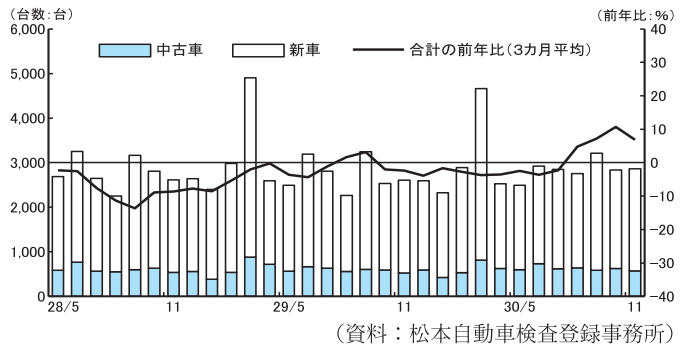


## 自動車、軽自動車新規登録台数

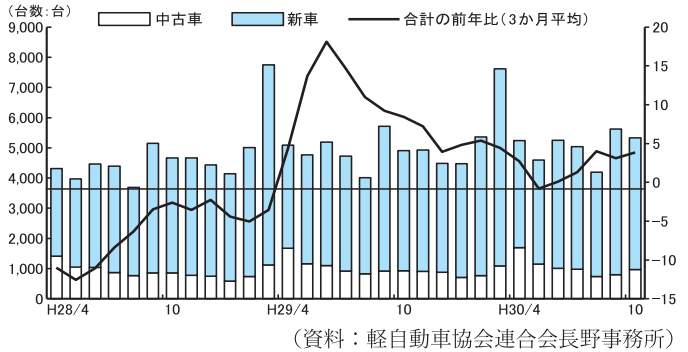
平成30年の新車と中古車を合わせた自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内）の累計は、11月現在、新車が25,564台、中古車が6,768台で、合計32,332台。昨年11月時点では、新車が25,350台、中古車が6,681台で、合計32,031台だった。本年の新車、中古車合計の対前年同月比3か月平均の推移を見ると、年初は前年を下回っていたが、8月以降前年を上回って推移している。

平成30年の新車と中古車を合わせた長野県全体の軽自動車新規登録台数累計は、10月現在、新車が42,805台、中古車が9,914台で、合計52,719台。昨年10月時点では、新車が41,340台、中古車が9,981台で、合計51,321台。新車では、平成28年の登録台数が少なかったこともあり、昨年4月頃から概ね前年同月比がプラスとなっており、平成27年の1～10月累計を若干下回る水準となっている。また、中古車の1～10月の登録台数累計は、平成8年以降最多だった昨年と、ほぼ同数となっている。

## 自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内）



## 軽自動車新規登録台数（長野県合計）

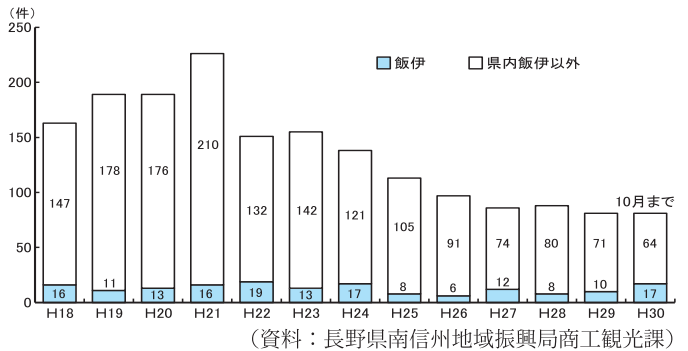


## 倒産件数（負債総額 1千万円以上）

平成30年の当地区の倒産件数は、10月までの累計で17件で、昨年一年間の累計を上回っている。

また、業種別の内訳は、製造業5件、販売業3件、建設業3件、運輸・サービス・その他の業種が6件となっている。

## 倒産件数（負債総額 1千万円以上）各年の推移

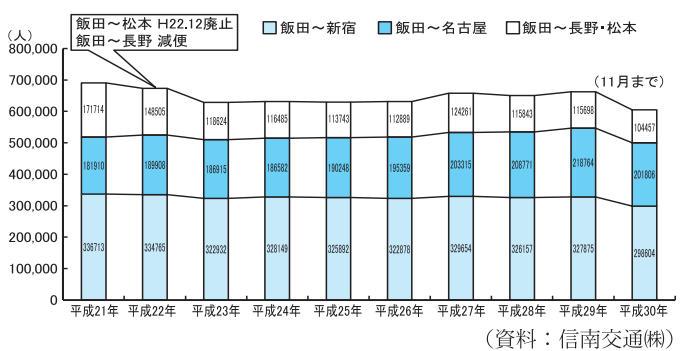


## 高速バス利用人数

平成30年1～11月の高速バス利用人数の累計は、飯田～新宿線298,604人、飯田～名古屋線201,806人、飯田～長野線104,457人で、3路線合計では604,867となっている。平成23年以降、年間の3路線合計は630,000人前後で推移していたが、平成27～29年は、650,000～660,000人で推移している。

グラフにないが本年の各路線の月間利用人数を前年同月比で見ると、飯田～名古屋線で本年の前年同月比がマイナスとなった月は他の2路線に比べて少なく7、9、11月の3月だったが、7月の飯田～名古屋線における前年同月比の減少幅は、他の2路線に比べ大きかった。

## 中央道高速バス乗車人数の推移

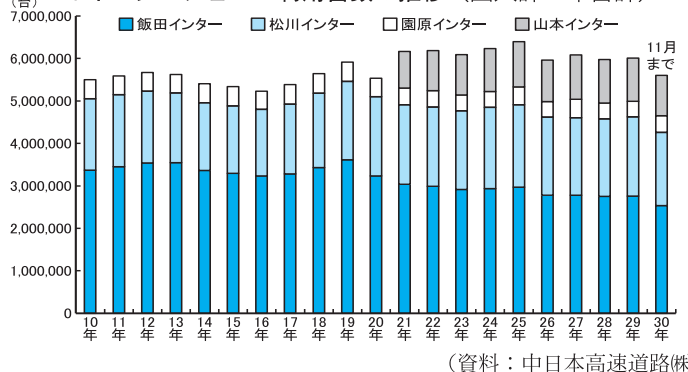


## 中央道利用台数

### （飯伊地区 4 インターチェンジ 出入合計）

平成30年1～11月の、当地区4インターチェンジ利用台数累計は、飯田IC 2,538,402台、松川IC 1,718,312台、園原IC 398,573台、山本IC 944,032台で、合計5,599,319台となっている。これをもとに平成30年の各ICのシェアを算出すると、飯田ICが45.3%、松川ICが30.7%、園原ICが7.1%、山本ICが16.9%となる。園原ICの昨年のシェアは、昨年の6.1%から1.0ポイント上昇している。

## 4 インターチェンジ利用台数の推移（出入計・年合計）



# なぜ、日本の宿泊・飲食サービス業の生産性は 欧米に比べ低いのか？

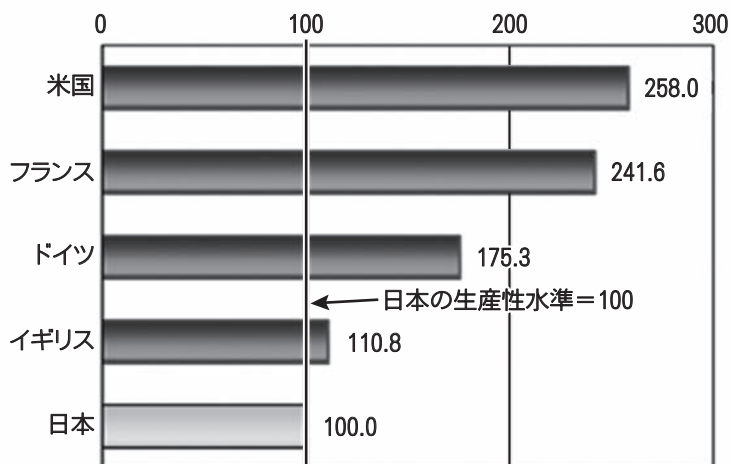
飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課  
中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

人手不足が深刻化する中、わが国の経済成長のために、国は中小企業の労働生産性を高める施策を積極的に打ち出しています。(財)日本生産性本部では、「産業別労働生産性水準(2015年)の国際比較」を今年4月に発表しました。「日本を100としたときの、各分野における日本と主要国の労働生産性水準」では、日本、アメリカ、ドイツ、イギリス、フランスの5カ国の中で日本の労働生産性は全体的に低い傾向にあり、特に、日本の宿泊・飲食業の労働生産性水準は、5カ国の中で最も低く、トップであるアメリカと比較すると2倍以上の差があることがわかります。

宿泊・飲食業の日本と主要国の労働生産性水準(日本=100)

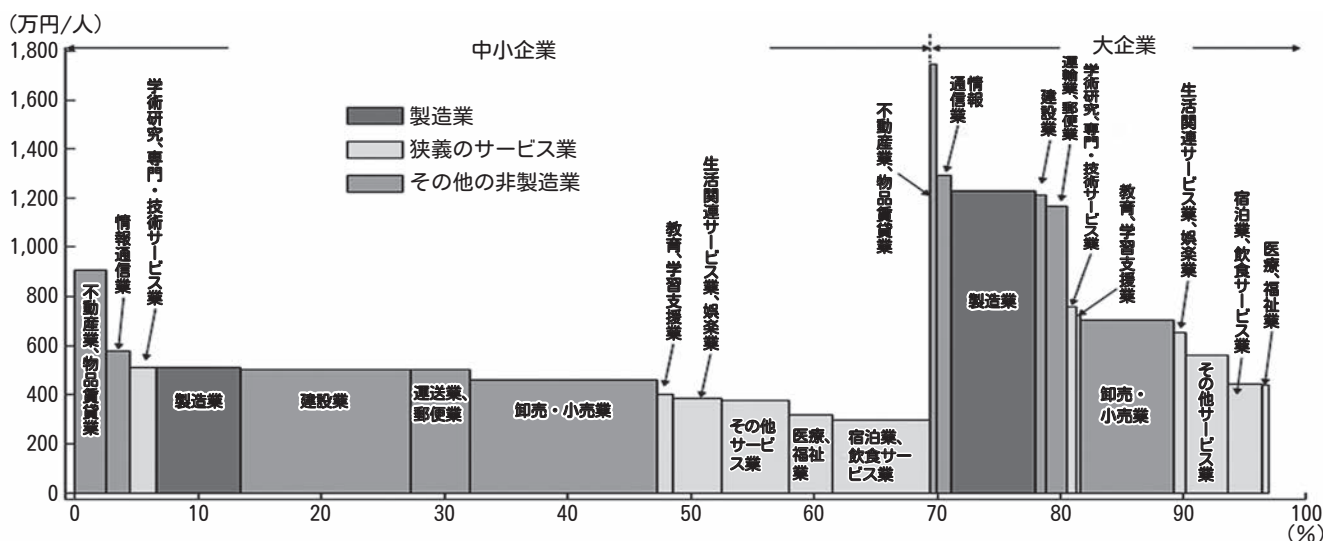


## 宿泊・飲食



(日本生産性本部「産業労働生産性水準(2015年)の国際比較」より)

また、2016年度版中小企業白書の労働生産性分析によりますと、大企業に比較して、中小企業の労働生産性の平均値は下回っています。特に、宿泊・飲食サービス業を始めとしたサービス業は、労働生産性の平均値が1人当たり300万円を下回っており、他業種と比較しても低い結果になっています。



資料：財務省「平成26年度 法人企業統計年報」 総務省「平成26年 経済センサス-基礎調査」再編加工

(注) 1. 労働生産性=付加価値額/総従業員数

2. 付加価値額=営業利益+役員給与+役員賞与+従業員給与+従業員賞与+動産・不動産賃借料+租税公課

3. 従業員数=役員数+従業員数

下図の計算式のように、宿泊・飲食サービス業の労働生産性を上げるには、分子の付加価値額を高め、分母の労働投入量を低く抑える。この2つをバランスよく進めていくことが重要です。分子を増加する取り組みとして、販路拡大、値上げ、食材やメニューの工夫、接客サービスの向上などがあります。分母を減少させる取り組みとしては、機械化やIT化などを通じて、同じ作業内容で少ない資源や人数で作業する事などがあげられますが、過重労働や違法労働などのブラック企業になっては本末転倒です。

宿泊・飲食の生産性向上における計算式の分子と分母の関係

$$\text{生産性} = \frac{\text{付加価値を高める（新規需要開拓・調理、接客、提供方法）}}{\text{労働投入量の効率化（器械化・ロボット・ITツールの導入等）}}$$

さて、なぜ日本の宿泊・飲食サービス業の労働生産性が欧米と比べ低いのか？これは、日本の文化的・産業構造的な要因が関係していると思います。

一つには、経営者に「生産性」という概念が薄く、関心ごとは、生産性ではなく売上・利益・客数・お客満足度であるという点です。それは、結果として人手や時間で手間がかかることにつながります。丁寧すぎる接客をする旅館や居酒屋があったり、一つのお皿に盛り付ければよいものを、幾つもの高価な食器に盛り付けたりと、確かに見た目は良いですが、盛り付けの手間や配膳の手間、洗い物も増えたり、食器が欠ける頻度も高くなります。リピーターや常連客を生み出し、売上や利益に貢献する事もありますが、労働投入量で測った生産性の意味では、貢献は薄いと思います。

二つ目には、飲食店において、提供している商品の品種・品目数が多いことがあげられます。しかも、そのコストをメニュー価格に転嫁できない厳しい価格競争など少量多品種を好む日本のオーダー・パターンが厨房やホールの生産性を下げる要因となっていると思います。

三つ目には、飲食店の営業時間が長い事もあるかと思えます。最近では繁忙時間だけ店舗を開けている企業も見受けようになりましたが、アイドルタイムにおいても店舗を開けている飲食店は数多くあります。仮に営業時間を2倍にしても、売上が2倍に伸びるわけでもないと思います。営業時間÷労働時間の長さが生産性水準の低さの要因にもなっていると思います。

このように、日本では、「おもてなし」や「接客サービス」を厚くすることが強みと考える人が多く、受ける側の期待も大きいと思います。国際的に見て、日本の宿泊・飲食サービス業に対する評価はトップ水準にも関わらず、欧米に比べて「生産性が低い」という議論は一面的であり、必ずしも生産性を上げる必要があるか、一考を要するのではないのでしょうか。

国は、中小企業の労働生産性向上について、人からAIやロボット等の先端機器導入に向けて補助金や税制優遇措置などの施策を打ち出していますが、前述のように、日本の宿泊・飲食サービス業は、欧米と同様には考えにくいものがありそうです。

今や、3,000万人の外国人観光客が日本を訪れ、日本独特のサービスや提供方法に期待している人は多いと思います。しかし、労働生産性の向上は、経営という観点からは重要で、日本独自の「おもてなし」とのバランスを図りながら経営努力をしていく必要があるのではないのでしょうか。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 お取り引き支店 又は 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

## 北陸新幹線新高岡駅の現状 飯田市議会リニア推進特別委員会視察報告書を読む

去る12月16日、飯田市議会リニア推進特別委員会において、委員会が先に実施した視察の報告書が示されました。

今回は、その中の北陸新幹線新高岡駅および新設乗り継ぎ駅の視察に注目し、視察概要をみることにします。当課も新高岡駅には開業前と開業後に訪れ、同駅地域の推移に注目しているところです。



北陸新幹線新高岡駅と城端線新高岡駅（円内）  
（リニア対策課撮影）

### 1. リニア長野県駅予定地との共通点に注目が

高岡市は人口170千人（平成29年10月）、駅勢圏とみられる富山県呉西地域自治体（高岡・射水・氷見・砺波・小矢部・南砺市）で436千人（同）となります。同委員会が本駅を視察先に選定したのは、①在来線駅（中心市街地）と離れた（約1.5km）場所に新幹線駅が設置、②乗り継ぎ新駅をJR城端線と新幹線との交差地に請願駅として設置、③駅周辺整備面積が6.3ha、とリニア長野県駅の状況と大変似通っていることに着目したものです。

新高岡駅は、当初高岡市はじめ関係団体により在来線駅併設運動が展開されたものの、フル規格新幹線設置へ傾く中で分離駅を受け入れた経緯があるとのことで、視察に参加した委員からは「全体的によく考えられた駅周辺整備がされた」、「飯田市と似ていることを感じて帰った」などの意見が寄せられています。反面、「（都市計画の）狭いゾーニング設定のため、投資や事業展開が分散されるのではないかと懸念」、「本市（飯田市）においては中心拠点、広域交通拠点とした設定を堅持し、駅周辺及び駅周辺外周の開発は官民挙げてまちづくりの観点から監視していく必要がある」との見方がありました。

### 2. 駅利用者数は堅調な伸び

新高岡駅の利用者（乗降者）数は、当初7,000人/日とも想定されていたようですが、平成30年3月調査（新幹線まちづくり推進高岡市民会議）では、1日平均が4,831人（平成29年調査は4,746人）となっています。曜日別では日曜日が6,050人、土曜日で5,395人、平日（木曜日を調査）で4,474人です。委員からは、乗降客データに対して新高岡駅の「人通りはまばらだった印象」。ただ、駅周辺は「『閑散とした』印象はなかった」とのことでした。

高岡市は新高岡駅での利用者数増強を図るための施策（修学旅行・校外活動等の利用促進、団体旅行誘致促進事業、定期券購入補助事業等）を実施しており、速達タイプ「かがやき」の新高岡駅停車実現を最終目標としていますが、これまで臨時列車の扱いながら1日上下各1本停車していたのが、昨年ダイヤ改正があり、時刻表によると上りは土曜日の7時台、下りは平日（「運転日注意」＝特定日の運転）22時台の各1本の停車となってしまいました。

### 3. 駐車場と乗り継ぎ新駅は…

新高岡駅の駐車場は「840台のキャパシティ」があるものの、「平日にも関わらずほぼ満車」、「駐車場は混んでいる」と、各委員共通に必要な規模との受け止めと読みました。また、「(長野県駅の) 駐車場台数の規模を計る上で一つの参考となった」との意見がありました。



新高岡駅整備地区に隣接したショッピングモール  
(リニア対策課撮影)

ただ、前出の新幹線まちづくり推進高岡市民会議による「新高岡駅利用実態調査および課題等検討業務報告書」によると、来訪者の駐車場に対する意見では「立体駐車場が狭い」、「駐車台数が少ない」、「駐車場の拡張を」など駐車場の規模は十分ではない、という状況も窺えます。乗り継ぎ駅の利用については、「高校生のイオンモールへ通行利用で活用」、「新駅はイオンモールへの利用者が乗降客の多くだと知り驚いた」など、複数の委員の感想から、市側がそのような認識にあることが読み取れます。

イオンモールについては、駅整備地域の南側へも隣接して拡張する計画が伝えられているとのことで、まちづくりの観点から論議を呼ぶことになりそうです。

### 4. 駅周辺の景観については意見が

新高岡駅開業時にはなかったホテルが視察時に見られたことについて、委員からは「景観上残念と感じた」、「景観上マイナス」、「目の前に高層階のホテルができてしまうと全体の調和が乱れてしまうことを実感」と、委員には概ね不評でした。



新高岡駅前で開業したホテル(同)

飯田市は、11月から12月にかけて上郷・座光寺地区で開催した住民説明会において両地区の地区計画と特定用途制限地域について説明があり、両地区の商工業エリアで15m、沿道エリア(上郷地区)および調和エリア(座光寺地区)で12m、住居エリアは上郷地区12m、座光寺地区10mのそれぞれ高さ制限を設けるなど、一定の制限をかけることとしています。



新高岡駅前開業時からあるカフェ  
(同)

### 5. 財政面について注目が

駅整備関係費は、「高岡駅・新高岡駅の整備で370億円」、「2百数十億の投資」、「250億円の起債」などとの情報でしたが、現状同市は「5年間で40億円の財源捻出(歳出カット)」など厳しい財政運用を強いられている模様です。ただ、これは新幹線駅整備によるものだけではない、との指摘もあるとのことです。

これについて井坪隆リニア推進特別委員会委員長は、「当日の説明で、新幹線駅整備に係る事業費総額や内訳、その財源手当てなどの資料は示されていなかった。議会として今後リニア駅整備に対応していくため、高岡市より情報提供をいただいて検討し、他山の石としていきたい」とのことです。

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)